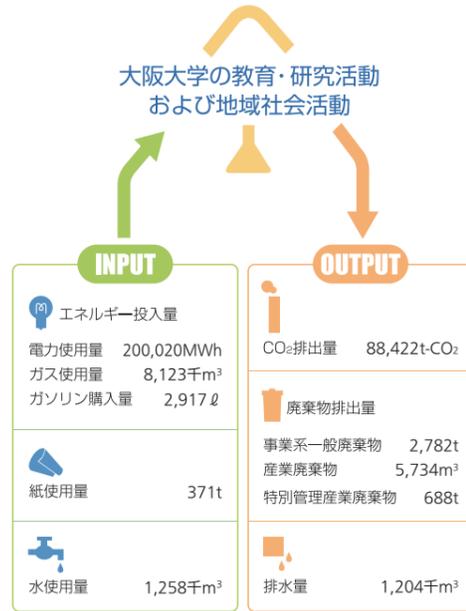


2007年度の環境目標と実績

環境方針	項目	目標	実績等
1. 法律等の遵守	産業廃棄物処理	マニフェストに基づく管理の徹底	適正に実施
	化学物質の取り扱い	薬品管理システムの運用の促進	薬品データベースの更新
	アスベスト対応	吹付け材の実態調査および除去	実施済
	PCB対応	適切な保管・管理	大阪府へ届出済
2. 環境負荷低減	エネルギー使用量	電力使用量の前年度比床面積原単位1%削減	豊中 1.5%増 吹田 0.2%減 箕面 -
	グリーン購入推進	特定調達物品の目標100%	目標達成
	廃棄物リサイクル	一般廃棄物のリサイクル率向上	豊中 38.7%(+2.1%) 吹田 39.9%(+3.5%) 箕面 15.2%(-)
3. キャンパス・サステナビリティの実現	地域社会との連携	地域と協力して環境保全に関する活動を行う	キャンパスデザインプロジェクト
4. 環境マネジメントシステムの運用	大学構成員(教員、職員、学生)の意識向上	学内への情報発信	大阪大学環境報告書2007の公表 環境安全ニュースの刊行 環境月間講演会の開催 省エネ推進会議
5. 周辺地域との情報の共有	周辺地域への情報公開	周辺地域への情報発信	大阪大学環境報告書2007の公表 大阪大学公式HPの随時更新



大阪大学環境報告書

地域に生き世界に伸びる

2008

〈ダイジェスト版〉



国立大学法人大阪大学
副学長 西田 正吾

「環境」という幅広い課題に向かい 着実な努力を進めていきます

大阪大学における環境に関する取り組みをまとめた環境報告書2008を作成致しました。今回が3回目の報告書の公表となり、少しずつではありますが、大学構成員における環境への意識が確実に上がっていると感じられます。

温暖化防止やCO₂削減、リサイクル、省エネ、エコといった言葉が一般的なものとして使用されるようになり、日常生活の一部に溶け込む程になっています。しかしながら、快適性や利便性を手放せず、意識はしているけれどもなかなか実践できないという方も多いのではないのでしょうか。大阪大学では「教育研究活動の質を低下することなく無駄を省く」ことをモットーに、必要なものを保ちつつ不要なものを省くといった取り組みを続けています。誰でもできることを誰もが実行できる。そのような環境作りが大切なことであると考えます。

大阪大学環境報告書は、本学の環境保護推進活動の実績を広く公表するだけでなく、環境保護推進のためのツールとして活用できることを目指しています。ゆっくりでも確実に目標を達成できるよう、大阪大学の環境に対する考え方や取り組み状況について今後も継続して報告を行ってまいります。

待 兼 山 修 学 館



表紙の写真は豊中キャンパスにある待兼山修学館です。昭和6年に大阪帝国大学医学部附属病院の石橋分院本館として建てられ、その後医療技術短期大学校舎、医学部保健学科校舎として利用され、平成19年8月に改修を行い、総合学術博物館として再生しました。本施設は平成20年3月に登録有形文化財(建造物)に登録されました。

環境報告書2008詳細版は、大阪大学ホームページで公開しています。

URL <http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/information/joho/>

本冊子は環境負荷低減に配慮した素材を使用しています。



・用紙 FSC認証用紙を使用
・インキ VOC(揮発性有機化合物)を含まない大豆油インキを使用
・印刷 水なし印刷方式を採用

対象組織: 国立大学法人大阪大学
対象範囲: 吹田キャンパス、豊中キャンパス、箕面キャンパス*
対象期間: 2007年度(2007年4月~2008年3月)
*箕面キャンパス(2007年10月~2008年3月)
参考にしたガイドライン等:
環境省「環境報告ガイドライン(2007年度版)」
「環境報告書の記載事項等の手引き」(第2版)

連絡先
大阪大学施設部管理計画課
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1
TEL 06-6879-7137
Email sisetukanrihozen@ns.jim.osaka-u.ac.jp
URL <http://www.osaka-u.ac.jp/>

発行年月 2008年10月 次回発行予定 2009年10月

環 境 方 針

大阪大学は、常に新たな試みに果敢に挑戦し、「教養」、「デザイン力」、「国際性」の3つの教育目標を柱に、「地域に生き世界に伸びる」を基本理念として、社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献しています。また、大阪大学は、今までにも種々の分野で世界水準の研究者の養成を担ってきましたが、今後は地球環境の保全と回復が人類共通の最重要課題の一つと認識し、個々の研究シーズを地球、社会、人間という3つのシステムのサステナビリティを高めるとい方向づけに沿ってグランドデザインとして形づくることを目指します。このグランドデザインのもと、循環型社会システムの構築や環境リスク管理に寄与できる人材育成にも積極的に取り組んでいきます。

そこで大阪大学は、様々な教育・研究活動が行われているキャンパス内において、以下の環境保全活動を積極的に推進します。

1. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、環境に関する法規等をその法の精神に則り遵守し、環境保全に努めます。
2. 教育研究をはじめとするあらゆる大学活動において、地球温暖化対策の推進、グリーン購入の推進、エネルギー使用量の削減、廃棄物発生量の削減及び資源のリサイクルに努め、「大阪大学循環型社会システムの構築」を地域と連携して取り組み、地域社会の模範的役割を果たします。
3. 環境負荷の少ない緑豊かなキャンパス環境を整備するとともに、地域社会との連携を通した「キャンパス・サステナビリティ」の実現に努めます。
4. 環境保全活動を積極的に推進するため、本学の全構成員の認識のもと、その参画を促し、継続性のある環境マネジメントシステムの確立を目指します。
5. 周辺地域環境との調和・共生を図るため、周辺地域を含めた環境関連情報を定期的に把握するとともに、それを積極的に公開し、環境保全の取り組みへの理解と協力を求めます。



国立大学法人大阪大学総長

伊 田 清 一

総長からのメッセージ

豊かな人材を育成し、教育・研究活動を通じて持続可能な社会の実現を目指します

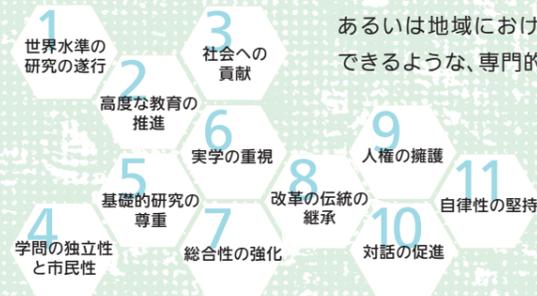
大阪大学は、「懐徳堂」の自由な学問的気風や「適塾」の先見性を精神的な柱として受け継ぎ、1931年(昭和6年)に帝国大学として創設されました。以来、70余年の歴史を刻みつつ、常に世界最先端を目指した教育研究を实践し、かつ人類の知的水準の向上に寄与し続け、教育研究活動を通じて社会の安寧と福祉、世界平和、人類と自然環境の調和に貢献して参りました。

今日の我々の生活は、エネルギー資源をはじめとする各種資源の利用により成り立つ資源消費型のライフスタイルです。しかし、経済・技術の発展や生活水準の向上に伴い、これら資源の利用は増大し、環境問題をはじめとする様々な問題は、地球規模へと拡大しています。従来大量生産・大量消費・大量廃棄の社会システムから、循環型の持続可能な社会システムへの変革が、今まさに求められています。

現代社会が抱え込む種々の問題は、かつてのように政治・経済レベルのみで対処できるものではなく、また特定の地域や国家に限定して処理しうる問題でもありません。世界規模での、あるいは地域における、文化への根源的な問いかけが必要です。そして、それを認知し実行できるような、専門的知識・広い見識・柔軟なセンスを身につけた人材を育成し輩出することが、大学が果たすべき重要な役割の一つであると考えます。

大阪大学では国立大学法人として、教育研究活動を通じてその成果を社会に還元し、国民と社会の負託に応えていく為にも、「地域に生き世界に伸びる」を基本理念に、社会的貢献をはじめとする責務を果たすべく、環境保護推進活動を重要活動の一つと位置付け、持続可能な社会の構築を目指した取り組みを、今後一層進めて参ります。

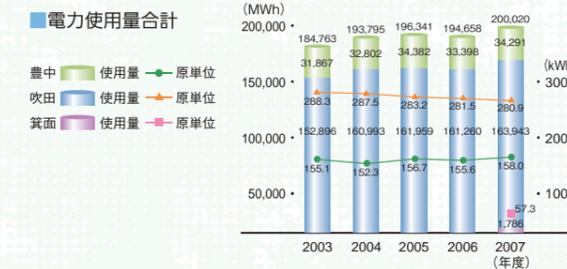
大阪大学憲章



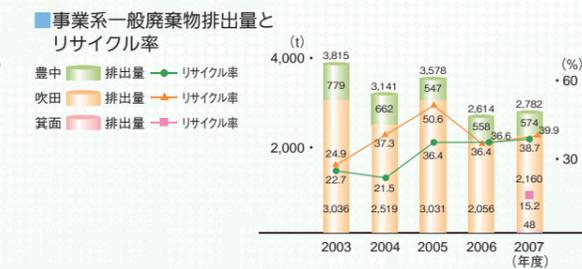
環境活動への取り組みと実績

大阪大学では環境負荷の削減を重要課題と位置付けその基本となる環境パフォーマンスデータの収集を行い、環境への影響が大きいと考えられる項目に対し、目標達成に向け環境保全活動を推進しています。

電気使用量削減のため全学的な省エネ活動を行っています



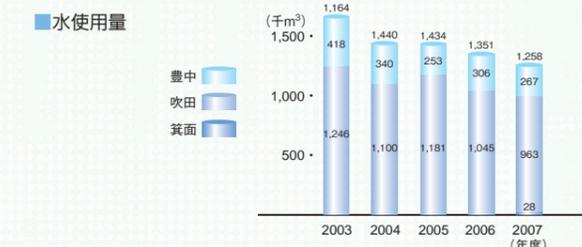
廃棄物排出量を削減及び再資源化に取り組んでいます



省エネ活動によりガス使用量も削減しています



さまざまな節水対策により水使用量削減に努めています



社会貢献・コミュニケーション活動

大阪大学では、「安全と健康に配慮した教育環境の整備」、「環境に関する教育・研究・課外活動」、「開かれた大学をめざし地域社会との連携」など、さまざまな取り組みを行っています。

環境月間における公開の講演会を行っています



環境月間講演会の様子

教職員および学生で構内環境美化に取り組んでいます



構内環境美化の様子

安全・安心な教育・研究環境整備のため耐震改修を実施しました



体育館 改修後

できることから省エネ活動に取り組んでいます



(サイバーメディアセンター) 葺葺による直射日光の遮蔽。

法に基づく実験系排水の水質検査を行っています



排水自主検査の様子

吹田キャンパスで防災訓練が実施されました



汚染区域の除染作業の様子

「キャンパスに咲く花 阪大吹田編」が刊行

植物のことをもっと知りたいという学生の要望に応えるために2001年度より始まった基礎セミナー「植物を知り、植物に学ぶ」の成果をまとめた本『キャンパスに咲く花 阪大吹田編』(福井希一・栗原佐智子編 発行:大阪大学出版会)が刊行されました。本書を片手にいろいろな方にキャンパス内の散策を楽しんでいただける内容となっています。



キャンパスデザインプロジェクト

キャンパスや周辺地域のフィールドワークを通して、生活環境や知的創造環境としての個性や問題を読みとりながら、魅力的な環境を継承したり、創り出していくためのデザイン活動を行う授業です。プロジェクトのひとつ『ランド東口のバリアフリー化』ではキャンパスデザイン室と施設部の職員・そのサポーター、地域住民とのジョイントにより、豊中キャンパスのランド東口のバリアフリー、ランドと幹線道路を隔てる傾斜地の公園化など「アカデミック街道沿いの環境形成」についてワークショップを開催し、今後の整備に向けた意見交換を行いました。

環境保全活動に取り組む学生サークル(GECS)

2003年に旧大阪外国語大学で発足したサークル(GECS)は、「みんなの環境意識と行動を変えよう」をモットーにキャンパス内外で啓発活動に取り組んでいます。2007年度の主な活動として、教科書リユース市、ホッかる通信発行、学園祭でのゴミ分別指導、箕面川での清掃活動、エコ宅運便などです。



※エコ宅運便...生協で回収した割りばし15キロを愛知県の工場に、自転車で啓発活動しながら届けました。郵送の際にCO₂を排出するトラックで運ばれることに疑問を感じ、本当のエコを見つめ直すため取り組みました。
※ホッかる通信発行...リサイクル可能な弁当箱ホッかるの回収率を上げるため取り組みました。



アカデミック街道沿いの環境形成